

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100611		
法人名	有限会社 メディカル葉山		
事業所名	よなわグループホーム やすらぎ		
所在地	長崎市岩屋町25-7		
自己評価作成日	平成24年6月30日	評価結果市町村受理日	平成25年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成24年7月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域医療に貢献して40有余年の 医院が母体で、法人代表も務める院長は、地域の方々にもなじみが深い。交通至便な所に位置し、JR道ノ尾駅、バス停から徒歩5、6分、銀行・郵便局・学校・幼稚園、大手スーパー等も近く、生活するのに、とても便利。グループホームへ転換開設して1年を経、外部評価を糧にその内容も充実しつつあります。グループホームとしては珍しく、看護職員も配置されており、健康管理面でも24時間体制で医院とも連携できていて、ご家族にも安心して頂いています。可能な限り、看取りまで対応させて頂き、ご家族から感謝のお言葉をいただいたりして、職員の一層の励みにもなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来、職員の入れ替わりを経験してきたが、センター長、管理者(看護師)と職員が結束し“よなわグループホームやすらぎ”を築き続けている。医療処置が必要な方もおられ、院長先生と看護師、職員が連携し、24時間の緊急連絡体制もとられている。療養型の医療施設から“グループホーム”に転換していくには職員の意識改革が必要で、前回の外部評価以降、課長、センター長の支援も受けながら、“グループホームらしさ”を職員全員で検討し、小さな取り組みをコツコツと続けてこられた。共有空間を含め、家庭的な雰囲気にするために、季節の壁飾りやお花を飾り、ポータブルトイレのカバーも職員が手作りして下さった。職員も一緒に食事をするようになり、一緒に会話をしながら“楽しい食事”の時間が作られた。今後は料理の下ごしらえも含め、ご本人のできることを増やしていく予定である。看護・介護の立場からのアイデアも多くなり、トランプ等のレクリエーションを楽しむ機会も増えており、介護計画にも“楽しみ”や“役割”が盛り込まれてきた。今後は職員の個人面談等も行いながら、更なるモチベーションアップを続けていく予定であり、着実に“暖かな触れ合い”が増えているホームであった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示や意識づけは出来ている。確認できる場を設けたり、実践につなげられる様、努力はしているが、まだ不十分。	前回の外部評価以降、センター長、管理者を中心に全職員が理念を胸に取り組みを続けてきた。医療連携と共に、グループホームらしさを大切に、家庭的な雰囲気作りに努め、食事の時も職員も一緒に食事をする姿が見られている。食後もレクの機会が作られ、ご利用者からも「ここは良い所よ」と言う言葉が聞かれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方とのあいさつはあるが、まだ計画を立てて、地域とのふれあいはしていない。	ホーム前が通学路でもあり、散歩時には学生や地域の方と挨拶を交わしている。開設前、課長とセンター長が、隣接する地域の方に1件1件挨拶に回った。地域の方から「グループホームとはどういう施設ですか？」という質問も頂き、説明をさせて頂いた。今後は老人会に出向き、ホームの取り組みを伝えていく予定である。	百合幼稚園・保育園との交流や老人会の会合に交代で参加するなど、地域の方との交流を増やしていきたいと考えられている。院長先生のアドバイスも頂き、子供たちの安全面も考えていく予定であり、地域行事にも参加し、楽しみを増やしていく予定にしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の方々には常々話をして理解してもらえよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は前は2回でしたが、今回は5回と重ねているが、まだサービス向上にいかす事まではいっていない。	系列事業所と合同で会議を行っていたが、24年1月から別々に時間をずらし、開催するようになった。家族、民生委員、老人会会長、地域包括の方と共に、消防訓練の日と同日に会議を行った時は消防署の方も参加して下さい。ご利用者との会話が盛り上がる時もあり、「ここは良い所ですよ」とお褒めの言葉を頂いている。	時間の制約もあり、報告のみで終わってしまう事もある。もっと多く、参加者の方々と意見交換ができるようにしたいと考えられており、今後も引き続き、会議のあり方を検討していく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2F入院病床がグループホームやすらぎに、そして5Fは多機能ホームいわやに新設されたりする過程において色々相談に乗って頂いたりと対応して頂いた。	会議には地域包括の所長に参加頂き、ホームの事を理解頂いている。課長とセンター長が市の窓口に出向き、住所地変更の具体的な事例に対して、相談・指導を頂いた。今後も引き続き、市の方に、年に1回は運営推進会議に参加頂けるように取り組みを続けていく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフの出入りに関しては職員の出入り口に施錠した。	職員への研修が行われ、院長先生からの講義も行われている。定期的カンファレンスを行い、職員が見守りを行うことで身体拘束を行わないケアに努めており、家族にもホームの方針を理解して頂いている。見守りを続ける事と共に、転倒等のリスクも説明している。優しい職員が多く、ご利用者の喜怒哀楽にも日々向き合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	できるだけ講習会には参加しているし、スタッフの間でミーティングの時間に職員教育をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的は事例が少ないが、学ぶ機会もない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の時、契約書を取り交わす時に重要事項説明書を読みながら分かりやすく説明し、不明に思う事、疑問点など、その都度うかがいながら納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者の細かい要望はそのつど対応している。	玄関に意見書箱も設置された。管理者と職員が中心になり、家族の面会時などに「何かありませんか？」と意向を尋ねている。家族からの提案で、転倒等の防止のためタンスの位置を変えたり、タンスの角をガードした。「外出させてほしい」などの意見を伺い、日々の取り扱みに反映できるように検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各事業所管理者と代表者・課長・センター長出席の全体会と、GHやすらぎ独自のミーティングが、月1回開催されている。。	職員の入れ替わりも経験している中、全職員で頑張ってきた。グループホームらしさを理解して、暖かさや安心を届けるための取り組みも行われ、裁縫が得意、レクが得意、お話を引き出すのが得意など、個々の職員のお力を発揮して頂いている。委員会活動も行われ、看護・介護の立場からのアイデアも増えている。	センター長と管理者の方で職員の悩みも聞いているが、今後は職員の個人面談等も行いながら、職員のモチベーションアップを続けていく予定である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所努力に加えて、国の介護職員改善交付金等を、給与に反映させたり、研修参加を促し、キャリアアップにつなげ意欲の向上につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修には、ベテラン職員がマンツウマンでの指導があったり、外部研修にはなるべく技量に応じた人選をしてそのひとにひつようなけんしゅう		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会での勉強会には極力参加してもらっている。		

自己	外部			自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に当たっての検討会、入居時のアセスメント。看護サマリーなどを通し、カードックス を利用してみんなで情報を共有している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期にはご家族にはご利用者様の安定のためになるべく頻回にご来所頂くようお願いしており、その折に要望や不安に耳を傾け相談にのり、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーを中心に職員も一緒に情報を共有している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼食の時間はリーダーだけ利用者と一緒に食べ、コミュニケーションの場を計る。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会には常に感謝の意を表し、共にご利用者様の変化や様子等を意見交換し、本人を支えていくよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力や理解のもとに馴染みの利用者の方は来てもらっている。	ケアマネの方を中心に馴染みの関係の把握を続けている。近所の方がホームに遊びに来られたり、お友達が年賀状を下さる方もおられ、絵手紙や年賀状を大切に保管されている。1階の公衆電話から家族等に電話をされる方もおられ、馴染みの美容院に出かけたり、お正月に自宅で家族と過ごされる方もおられる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人だけ孤立することがないように昼食時だけでも出すようにして利用者同士のコミュニケーションを計る。			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了した方のご家族の心配事や悩み等にもその都度電話や来所時に相談に乗り継続的な対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意向を重視している。お気持ちを常に聞き対応できるように努めている。意思表示が難しい方には表情や態度でお気持ちをくみとれるように努力している。	食後や入浴時、居室を訪問した時など、ご利用者とゆっくりと話す時間を持ち、表情やしぐさも観察して、思いの把握に努めている。院長先生の診察時に本音を語って下さることもあり、職員に伝えられている。職員の行った場所や食べに行った場所等を伝えることで、希望を引き出す方法もとられている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	等の情報を把握してそれを見て家族にも協力していただき昔されていた趣味をここで継続して楽しんでもらう様にする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能を活かして日常生活が送れる様にバーを設置している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画をもとに、職員全員の意見を活発に交換しているというところまではいっていない。	小さい頃の遊びや仕事内容等も把握しながら、ケアマネの方が中心となり計画を作成している。ミーティングでご利用者の情報を共有し、職員全員でモニタリングを行っている。健康管理(医療処置)に配慮すると共に、読書、テーブルを拭く、広告のごみ箱作り等、ご本人の役割と共に、家族との外出支援も盛り込まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をもとに個別記録をしており気づきや特記も記入している。申し送り時情報の共有で必要な見直しなどの参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	刺身などの配達、新聞の配達サービスなど個々の希望に沿った対応をしている。ご本人、家族の状況に応じて通院介助、介護タクシー手配の支援を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状ではまだまだ取り組みが不十分である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特定のかかりつけ医にはご家族同伴で受診をして頂き、その他は職員が同行して定期的受診し、かかりつけ医との情報交換を行っている。	毎朝、院長先生がホームを訪れ、ご利用者の様子を診て下さるので、ご利用者も楽しみにされている。1階のよなわ医院の受診は職員が行い、家族が受診介助された場合も含めて、情報共有ができています。ホームの看護師が点滴の管理も行っており、服薬内容も含め、看護師との情報交換が更に増えてきています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を常に配置しており、利用者様の健康管理や状態変化に応じた支援を行える様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事例は少ないが、看護サマリーや情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、本人とは契約書・意見書をもとにあらかじめ方針の話し合いを行い、医師・看護師・職員・家族でのチームでのケアに努めている。	「ここで最期まで」と言う方もおられる。医療処置が必要な方も多く、ホームの看護師が交代で勤務し、24時間の連絡体制もできている。主治医への報告も細やかにいき、食事量の増加に合わせて点滴も減ってきている。“できれば経口から..”と言う意向もあり、検査データを含めて先生から治療方針の説明も続けている。24年度は1人の看取りケアが行われ、精神誠意のケアが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡網等は出来ているが急変、事故発生に備えての全ての職員への応急手当や初期対応等の訓練は定期的に行われていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消化訓練のみ実施している。マニュアルはあるが全職員が地域との協力体制を築いているところまではいたっていない	3施設合同で訓練を行い、24年3月は消防署の方も一緒に夜間想定訓練が行われた。実際の通報も行われ、全職員が消火器を使える事を目標に緊張感ある訓練が行われている。同ビル3階の方にも協力をお願いしている。災害時に備え、ホーム内の備蓄と共に、厨房の会社でも飲料水や食料などが準備されている。	今後も引き続き、避難経路や避難場所の検討を行うと共に、全職員に周知していきたいと考えられている。実践に即した訓練を継続していく予定にしている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時の移動、居室でのオムツ交換等のプライバシーは配慮してるが完全に徹底できていない	ミーティングや安全委員会の中でも、ご利用者の尊厳や個人情報管理についての話し合いが行われている。繰り返しの言動が見られる方も、原因となる心理に目を向け、対応の方法の検討が行われている。“暖かな心の触れ合いを大切にします”という理念の実践に努めており、優しく、ご利用者思いの職員が多い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	充分ではないが、コミュニケーションを図り、小さい事でも傾聴して本人が満足して頂けるように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲内に本人に説得し理解してもらうよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様に応じた支援をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ここは外部に委託して食事を作っているの で利用者と職員と一緒に準備する事はできてない	前回の外部評価以降、職員も一緒に食事を食べる機会が作られた。職員も一緒に会話をしながら食べるようになり、“楽しい食事”の時間になっている。栄養バランスを考えた食事であり、季節の行事等に合わせた献立も作られている。「お刺身を食いたい」と言う方には、毎週2回、新鮮な魚が届いている。	行事毎のおやつは、ご利用者と一緒に作られている。今後も更に、たこ焼き作りや料理の下ごしらえ等も一緒にできればと考えられており、外食も楽しんでいかれる予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はチェックの上、医師へ報告をしている。不足の場合は栄養補助剤や点滴で対応している。またご家族の協力を得て利用者様の好きなものを買っていただき食事量がいけてない時は提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状況に合わせて行っている。自分でできる方な声かけ見守りをして出来ない方に関しては毎食後のケアを行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあつた排泄をそれぞれに声掛けして自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を大切にされている。職員は日々様子を記録し、ご利用者の排泄間隔を把握するように努めており、パッドの種類も検討している。昼夜問わず、少々の汚染はあるものの、下着にパッド1枚の対応で排泄の自立支援ができた方や、入居時にリハビリパンツだった方が、下着に変更できた方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便表を作り、牛乳をすすめたり、軽い運動を働きかけたりしている。医師のもとで下剤の与薬や浣腸を行うこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	職員体制によっては日曜日や時間帯が移動する事があるがなるべくご希望の入浴ができるように心がけている。	最低週2回は入浴できる体制にあり、希望に応じた入浴も可能で、好みのシャンプーを使用している方もおられる。おむつ使用の方は毎日陰部洗浄が行われ、心身状況によって2人介助が行われている。入浴時は職員との会話を楽しまれており、今後も足浴や季節に応じた菖蒲湯などの楽しみも取り入れていく予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室にテレビをみる人などは本人の生活状態に合わせて自由に行動してもらっている。眠れない方にはお話を伺ったりなど眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳により個々の薬について理解するよう努めている。また、服薬時には本人の口に入れてあげたりと服用するまで確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員の手伝いをさせていただくことで役割を持ち、張り合いを感じて頂いているがレクリエーションや外部との交流が少ないので楽しみ事や気分転換の機会が少ない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	スタッフの対応は今満足ではない 家族の方の外出支援を中心にしている	1階のよなわ医院に受診した帰りに、薬局まで一緒に出かけており、少しでも外の空気をを感じる事ができるように心がけている。季節に応じて、中学校への花見等にも出かけている。家族の方と一緒に周辺を散歩されたり、家族との外出も行われており、通院介助の帰りに外食をされたり、家族と一緒に自宅で食事をしてこられる方もおられる。	今後も引き続き、職員全員が外出する事の大切さを共有し、日々の生活の中で散歩や買い物時間を作っていく予定にしている。職員体制を整えると共に、系列施設の方とも協力して、ドライブやお花見を楽しんでいきたいと考えられている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できるかたはして頂き、その中から刺身代金をの支払いをしたりと使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	金銭を自分で管理できる方には公衆電話へ同行支援している。ご本人により要望があれば、家族に連絡とれるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の植物や掲示物を飾ったりしているが、まだまだ完全ではない フロア内に常にBGMが流れている	前回の外部評価以降、共有空間を含め、家庭的な雰囲気作りに取り組まれてきた。季節の壁飾りやお花を飾り、ポータブルカバーも職員が手作りして下さった。明るいリビングにはソファやテーブル等が置かれ、ご利用者の状況に応じて配置も変えている。リビングには季節の飾りがあり、リビングで過ごされる方も増えてきている。お好みの場所で日々過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等はあるが、まだ充分ではない。また配置等を考え移動してみたものの困難だった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や写真やテレビなど使い慣れた物や好みの物を持参して頂き、使用している。	各部屋には、本棚や趣味の本と共に、仏壇やお位牌、写真等を置かれている方もおられる。テレビやタンスを思い思いに配置され、安心できる部屋作りが続けられている。ベッドで過ごされる方には、見やすい位置に時計や写真などを置き、楽飲みやティッシュなどは枕元に置かれており、加湿器を持参されている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かした日常生活が送れるように臥床時の身体の向きを変えた。安全とプライバシーの確保をするためタンスの角にガードをしたり、位置を変えた。		

事業所名: よなわグループホーム やすらぎ

作成日: 平成 24 年 11 月 15 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	遠出や、買い物等家族の方の外出支援が主になっている。スタッフとしてもまだ足りていない。	季節に応じて、ドライブや家族の協力を得て外出支援を行う	1. 西友への買い物や散歩等で、より多く外の空気を吸う機会を作る。 2. 同系列他事業所とも協働し、季節ごとのドライブなど出来るだけでも行う。	12 ヶ月
2	4	運営推進会議の回を重ねているが、サービス向上に活かしているまでには、充分とはいいがたい。。	報告のみで終わってしまう事も多いので、中身の深い会議にする。	ミーティングや委員会で話し合ったことを会議の場で発表したり、もっと多く参加者の方々との意見交換につながるようにする。	12 ヶ月
3	48	おやつ後のレク活動等の時間がまだ充実していない。	レク担当の職員が先頭に立って充実を図る。	座ってできる体操や、脳トレ等、皆が楽しめるものを週2回と決めるなどし、団らんや、楽しみの時間とする。	12 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月